

第14回

'03選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 2003年1月19日 (日)
□ コース / 小倉北区・小倉城歴史の道一
八幡西区・北九州プリンスホテル
折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般・大学の部

1	京セラ (京都)	1° 44'35"
2	天満屋 (岡山)	1° 45'23"
3	ダイハツ (大阪)	1° 45'42"
4	沖電気 (宮崎)	1° 45'46"
5	みずほ銀行 (東京)	1° 46'37"
6	サニックス (福岡)	1° 46'57"
7	旭化成 (宮崎)	1° 48'01"
8	デオデオ (広島)	1° 49'08"
9	TOTO (福岡)	1° 50'13"
10	十八銀行 (長崎)	1° 50'49"
11	京都産業大学 (京都)	1° 53'03"
12	名城大学 (愛知)	1° 53'29"

区間賞

第1区 (4.2km)	大塚 茜 (十八銀行)	13'18"
第2区 (5.9km)	小林 雅代 (サニックス)	19'01"
第3区 (5.1km)	小川美智子 (京セラ)	16'21"
	山元 愛 (沖電気)	
第4区 (5.9km)	高仲未来恵 (京セラ)	★19'01"
第5区 (11.7km)	坂本 直子 (天満屋)	★36'00"

★は区間新

高校の部

1	神村学園 (鹿児島)	1° 47'27"
2	諫早 (長崎)	1° 47'39"
3	立命館宇治 (京都)	1° 48'11"
4	須磨学園 (兵庫)	1° 49'22"
5	筑紫女学園 (福岡)	1° 50'22"
6	口加 (長崎)	1° 50'24"
7	戸畑商業 (福岡)	1° 50'51"
8	興譲館 (岡山)	1° 51'45"
9	由良育英 (鳥取)	1° 51'59"
10	柳川 (福岡)	1° 52'15"
11	山田 (高知)	1° 52'53"
12	西京 (山口)	1° 54'22"
13	済美 (愛媛)	1° 54'33"
14	九州国際大付 (福岡)	1° 54'49"
15	北九州市選抜 (福岡)	2° 00'36"

区間賞

第1区 (4.2km)	今村かをり (山田)	13'39"
第2区 (5.9km)	岩元 千明 (神村学園)	18'55"
第3区 (5.1km)	山崎 由貴 (立命館宇治)	16'40"
第4区 (5.9km)	中島 美希 (神村学園)	★19'32"
第5区 (4.9km)	松本由香里 (諫早)	16'26"
第6区 (6.8km)	前島 香代 (神村学園)	20'52"

★は区間新



1位でフィニッシュした京セラの原裕美子

一般・大学の部

京セラが好記録で初V 全日本15位の雪辱果たす

京セラは3区でトップに立つと、続く4区のエース・高仲未来恵が区間新、2位以下を大きく引き離して歴代2位の好タイムで初優勝した。京セラは全日本実業団駅伝で調整に失敗して15位と惨敗、その雪辱を果たした。

1区6位、2区4位と序盤は後塵を拝した京セラだったが、3区のルーキー・小川美智子が、並走する沖電気の中継所直前で振り切ってトップに躍り出た。続く4区の高仲は終始積極的に飛ばし、後続に40秒の大差をつけて最終区へ。アンカーの原裕美子も区間新の快走で圧勝した。

天満屋は、5位でタスキを受けたアンカーの坂本直子が従来の記録を47秒も更新する区間新で3人抜き、2位に食い込んだ。前回優勝のダイハツは各区间で安定した走りをみせたものの、主力を欠いて3位止まり。3区の山元が首位争いをした沖電気は4位に終わった。

大森国男・京セラ監督 「(全日本実業団駅伝15位で)失いかけていた自信を取り戻すことが出来ました。全国制覇まで7割というところまで来ました」

高仲未来恵・京セラ4区 「どこか弱い自分から抜け出したいと思っていた。チームとしても(全日本実業団駅伝の)リベンジの大会でした」

谷口浩美・沖電気監督 「駅伝は初めてのさい配だったが、まずまずかな。川上(優子)、岡本(幸子)に続く選手が育っていない。チームの底上げがこれからの自分の仕事です」

高校の部

神村学園が悲願の初優勝 アンカー前島が逆転

全国高校駅伝2位の神村学園が1区の出遅れを後続でカバー、3つの区間賞を奪い、都大路の上位校が顔をそろえた激戦を制し、初優勝を飾った。

区間ごとにトップが入れ替わる混戦となった。神村学園は1区でトップから28秒遅れの7位と出遅れたが、2区の岩元千明が区間賞の走りで2位に浮上。その後は諫早、立命館宇治との競り合いが続いた。最終6区でトップの立命館から4秒遅れ、後ろの諫早とは6秒差でタスキを受けた前島香代は、上下動の少ないフォームで正確なピッチを刻み、1km過ぎで立命館をかわしてトップに。2位浮上の諫早・松元美香も突き放した。

諫早は12秒遅れで2年連続の2位、前回優勝の立命館は最終区で2人にかわされ3位。全国高校駅伝優勝の筑紫女学園は過去最低の5位に沈んだ。

前島香代・神村学園6区 「この1年、準優勝のために頑張ったわけじゃない。やっと優勝できた」

有川哲蔵・神村学園監督 「(優勝チームに送られる女性ランナーをかたどった)博多人形が欲しくてしかたなかった。どこに飾ろうか。目立つところがいいな」

松元利弘・諫早監督 「(アンカーの)松元美香は今の状態ではよく走った。もう少し、前半で貯金がほしかった」



激戦を制した神村学園のアンカー・前島香代